

コーポレート・ガバナンス	リスクと危機の管理	レスポンシブル・ケア活動	品質保証	情報セキュリティ	デジタル・トランスフォーメーション
知的財産	租税戦略	生物多様性	生活者とのコミュニケーション	保安防災	社会貢献活動

レスポンシブル・ケア活動

日々の安全確保と環境保全を図るため、化学に携わる企業の自主管理活動である「レスポンシブル・ケア(RC)活動」に取り組んでいます。

社会的課題

製品の安定供給や品質・安全性の確保、安全で衛生的な労働環境の提供及び事業活動による環境負荷の低減は、国内外に拠点を設け、幅広い産業界に多種多様な素材・製品・システムを提供するケミカル事業を有する企業として、果たすべき重要な社会的責任です。

方針

化学品の製造・販売・流通等に関わる花王は、製品のライフサイクル(製品の開発・製造から使用・消費・リサイクル・廃棄に至るまで)において、環境・健康・安全を確保し、その取り組みを継続的に改善し、生活の質の向上と持続可能な社会の実現に貢献することにより、社会からの信頼の向上に努めています。

この目的達成のため、「環境・安全の基本理念と基本方針」を定めると共に、「花王レスポンシブル・ケア方針」を定め、事業活動を行っています。

花王は1995年の日本レスポンシブル・ケア協議会設立当初から「RC活動」に参加しており、2008年には「RC世界憲章」の支持宣言書に当時の尾崎社長が、さらに2014年には改訂された「RC世界憲章」に当時の澤田社長が、それぞれ署名を行い、RC活動を花王全体で推進していくことをコミットしています。化学産業界の「環境・健康・安全」に関する「RC活動」の基本項目^{※1}の考え方に則った「花王レスポンシブル・ケア方針」を定め、協

力会社を含めた花王全体で毎年目標を策定し、年間計画に基づいた活動を継続的にを行っています。

この「花王レスポンシブル・ケア方針」は2012年に制定し活動を進めてきましたが、2014年に国際化学工業協会協議会(ICCA)が「RC世界憲章」を改訂、それに伴い2016年に日本化学工業協会(JCIA)も「RC基本方針」を改訂したのを契機に、今後2030年までの活動や目標を決めるにあたり、2020年12月に改訂しました。この改訂では内容を刷新し「継続的教育」を追加すると共に、各項目に表題を付加して社員が親しみやすいよう配慮しました。

※1「レスポンシブル・ケア(RC)活動」の基本項目:「環境保全」「保安防災」「労働安全衛生」「化学品・製品安全」「物流安全」の5つの推進項目と「社会とのコミュニケーション」



環境・安全の基本理念と基本方針
<https://www.kao.com/jp/sustainability/klp/policy/environment-safety-policy/>

花王レスポンシブル・ケア方針
<https://www.kao.com/jp/sustainability/klp/policy/responsible-care-policy/>

戦略

リスクと機会

リスク

RC活動の一つひとつが社内及び社外ヘインパクトを与える重要活動であるため、ひとつでも欠けると、中長期的なリスクとしては、グローバルで存在価値ある

企業になるという2030年の目標の達成が困難になると共に、花王製品に対するイメージや会社への信頼性の失墜が生じます。

機会

中長期的な機会としては、企業の自主的な活動である「RC活動」を推進することで、ステークホルダーとの強い信頼関係が構築されることは、2030年の目標であるグローバルで存在価値ある企業になることへの前進となると共に、花王製品のブランドイメージや会社への信頼性向上につながります。

戦略

Kirei Lifestyle Planの2030年までの花王のアクションの「脱炭素」「ごみゼロ」「水保全」「大気および水質汚染防止」「社員の健康増進と安全」については2030年目標を設定し、それをバックカスティングする目標を毎年設定し、日々の活動に落とし込んでいます。

また化学に携わる企業の自主管理活動である「RC活動」をPDCAサイクルを回すことで花王グループ会社全体で推進していくと共に、国際的な認証制度であるISO14001やISO45001なども活用しながら活動を強化します。

コーポレート・ガバナンス	リスクと危機の管理	レスポンシブル・ケア活動	品質保証	情報セキュリティ	デジタル・トランスフォーメーション
知的財産	租税戦略	生物多様性	生活者とのコミュニケーション	保安防災	社会貢献活動

レスポンシブル・ケア活動 GRI 403-1

社会的インパクト

現在、花王は、事業戦略にESG視点を融合させた化学産業界の自主的な環境・健康・安全を確保する活動である「RC活動」を推進することで、倫理的な観点からも社会との信頼関係の構築を通じた持続可能な社会づくりに貢献しています。その結果、生活者や顧客企業が安心して花王製品を利用でき、また社員が安全・安心に働くと共に、工場／拠点の近隣コミュニティが安全・安心な生活を送ることができます。

また、事業活動地域においては環境負荷の低減や衛生状況の改善、地域社会への還元が行われ、その結果、地域住民を含むステークホルダーの生活レベル(QOL)の向上に貢献できます。

貢献するSDGs



事業インパクト

花王は、「RC活動」を推進することで、社員が安全・

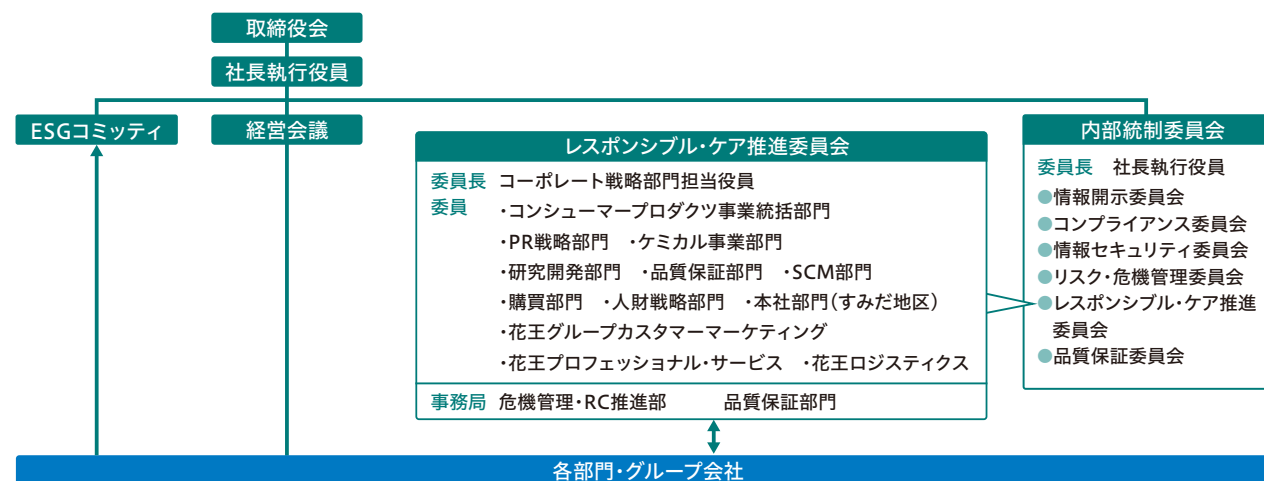
安心に働け、事業活動が正常に行われ、安定した商品供給が行われると共に、不要な経費の発生が抑えられます。また、こうした活動を通じて生活者や顧客企業などのステークホルダーが安心して花王製品をご利用いただけるだけでなく、RC活動には法順守も含まれるため、社会的レピュテーションの向上により、製品やブランドへの好感度も上がり事業拡大が望めます。

ガバナンス

体制

レスポンシブル・ケア推進委員会は、社長が委員長を

レスポンシブル・ケア活動体制



務める内部統制委員会内の一委員会として位置づけられており、内部統制委員会(年2回開催)に報告を行っています。内部統制委員会は取締役会へ傘下の委員会の活動報告をまとめて行います。レスポンシブル・ケア推進委員会の委員長は部門統括(常務執行役員)が務め、日本国内の8つの推進部門の代表と共に、4部門の代表と品質保証部門の担当を加えた委員14人で構成されており、毎年1回開催しています。事務局は危機管理・RC推進部と品質保証部門が務めています。

花王(株)を含む花王グループ内各ケミカル会社は、各国の化学工業会に参画しRC活動を推進しています。

コーポレート・ガバナンス	リスクと危機の管理	レスポンシブル・ケア活動	品質保証	情報セキュリティ	デジタル・トランスフォーメーション
知的財産	租税戦略	生物多様性	生活者とのコミュニケーション	保安防災	社会貢献活動

レスポンシブル・ケア活動 GRI 403-1

RC 活動推進のPDCA

日本国内の8推進部門及びすべての海外関係会社は、RC 推進委員会で決定された花王 RC 目標をもとに、それぞれの業務内容や業種・業態に応じた活動計画を立案し、以下のようなPDCA サイクルでRC 活動を推進しています。

花王グループ RC 推進委員会(9月)

毎年9月に開催する「花王グループ RC 推進委員会」では、活動方針の徹底やマネジメント体制の強化に関する施策を討議するほか、花王グループの中期目標と8月に行うRC 事務局監査の結果をもとに、次年の数値目標と活動目標を審議します。

グローバル RC ミーティング(10月～11月)

10月～11月に開催する「グローバル RC ミーティング」では、RC 推進委員会事務局から「花王グループ RC 推進委員会」で決められた花王グループの中期及び次年目標の説明を行い、各社に次年の目標と計画の策定を依頼します。各社からはRC 活動状況が発表され、グループ間での情報の共有を図ります。

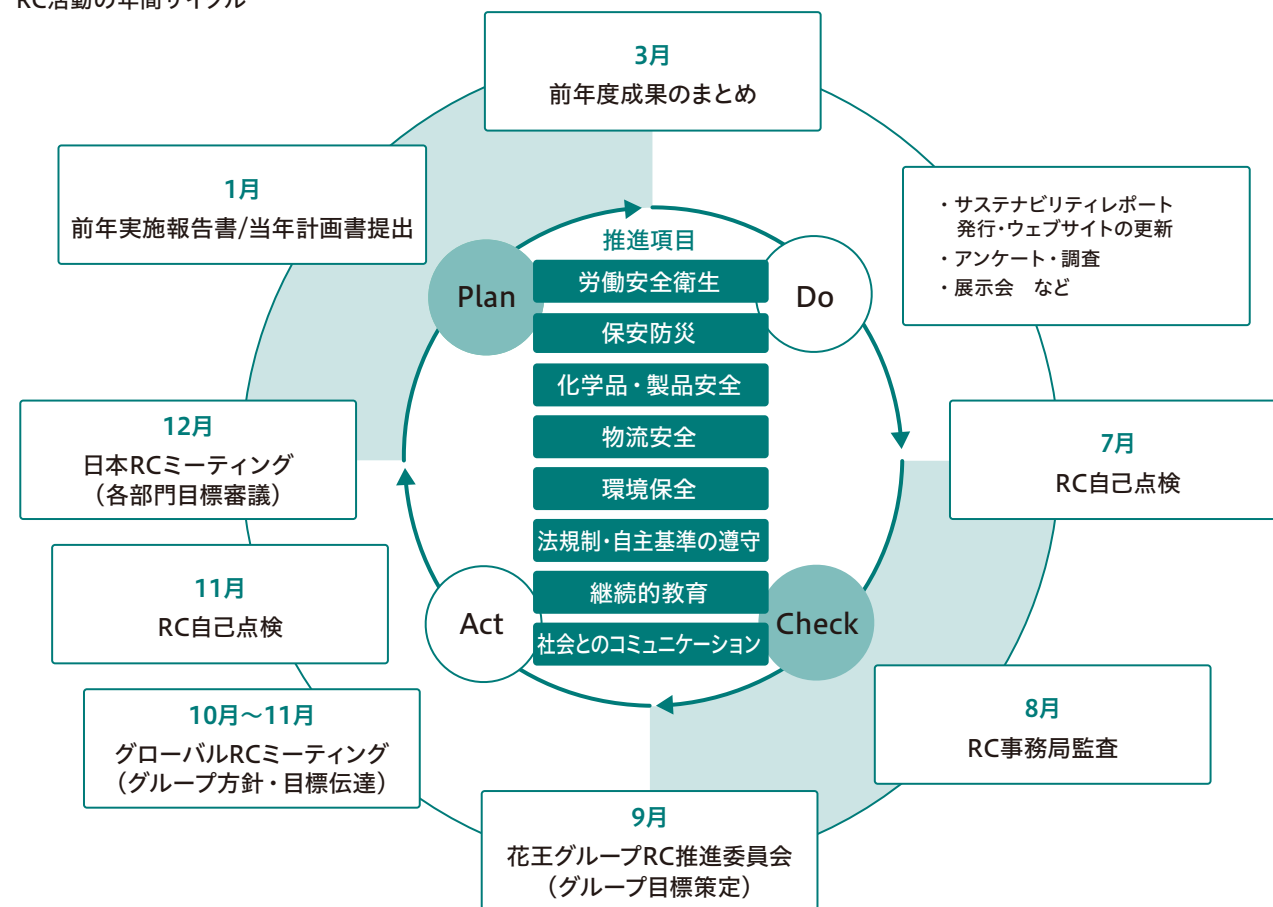
日本 RC ミーティング(12月)

12月に開催する「日本 RC ミーティング」では、「花王グループ RC 推進委員会」で決められた花王グループの数値目標と活動目標をもとに、各推進部門のRC 推進委員が次年の計画案を発表し、審議します。この会議で承

認された内容は、RC 推進委員が各推進部門に持ち帰り、推進部門ごとにより細かく設けた活動ユニットへ伝え

ることで、現場に密着した活動の継続的な改善・レベルアップを図っています。

RC活動の年間サイクル



P304 RC 活動の標準化

コーポレート・ガバナンス	リスクと危機の管理	レスポンスブル・ケア活動	品質保証	情報セキュリティ	デジタル・トランスフォーメーション
知的財産	租税戦略	生物多様性	生活者とのコミュニケーション	保安防災	社会貢献活動

レスポンスブル・ケア活動

GRI 403-1

RC 事務局監査

花王は、RC 活動の進捗状況や課題を把握するために、7月に各推進部門が活動ユニットに対してRC 自己点検を、8月にRC 推進委員会事務局より選出された監査チームが、日本の各推進部門及び海外グループ会社に対して監査を実施しています。

これらの結果を9月の「花王グループRC 推進委員会」及び11月の「グローバルRC ミーティング」で報告すると共に、翌年の数値目標や活動目標の策定に活かしています。

なお本監査は全社規程(B-02-00「レスポンスブル・ケア事務局監査規程」)に基づき実施されるもので、監査に用いるチェックシートの設問ごとに実施状況(実施の有無、実施率)を点数付けすることで評価します。

P305

RC 事務局監査実施状況

環境・安全データベースなどを活用

花王は、環境負荷の低減や労働災害・事故発生数の低減を図るための環境・安全データベースである「環知安システム」※1を構築して運用しています。

このシステムでは、花王全体の温室効果ガスの排出量や労働災害の発生度数率・強度率などを自動算出することができ、環境負荷低減や労働災害防止に活用しています。

グループでより効率的に環境・安全データを利用するために、新しいシステムへの移行を検討中で、現在関

連する部門と共に具体的なシステムの検討を行っています。

※1 環知安システム
エネルギー使用量、温室効果ガス排出量、ばい煙排出量、水使用量、排水量、排水濃度測定結果、土壌・地下水測定結果、PRTR 法対象化学物質の取扱量及び排出量・移動量、廃棄物等の発生量・排出量・最終埋立処分量、労働災害統計、交通事故統計など、多様なデータを共有している。

P25

Our ESG Vision and Strategy > ガバナンス

P288

コーポレート・ガバナンス

教育と浸透

製品のライフサイクルにおける環境・健康・安全を確保する「RC 活動」の理念やその方針は、花王全社員のみならず協力会社とも共有する必要があります。そのためRC 推進委員会事務局や各推進部門のRC 担当者は、社員や協力会社の社員を対象に、環境や労働安全衛生活動などのRC 活動やその方針に関する教育を定期的に実施しています。

P304

RC 活動の標準化

ステークホルダーとの協働

花王グループ各社はRC 活動の基本項目のひとつである「社会とのコミュニケーション」に基づき、環境・健

康・安全に関わる方針や活動状況を積極的に開示し、生活者・顧客、社員、地域社会等とコミュニケーションを積極的に行い、すべてのステークホルダーの支持と信頼を得よう努めます。

リスク管理

リスクアセスメントプロセスは、RC 推進委員会事務局において、RC 活動の基本項目である8つの推進項目のそれぞれにおいて、前年及び今年上半年の活動結果と実績を踏まえ、リスクを特定し、そのリスクの評価を行い、優先順位をつけ、翌年のRC 目標に反映しています。このRC 目標は毎年9月頃に実施する花王グループRC 推進委員会にて各委員により審議・承認され、内部統制委員会に報告しています。

また、組織横断的なリスクや共通するリスクについては、必要に応じてコーポレートリスクテーマとして対応が行われています。

P40

Our ESG Vision and Strategy > リスク管理

P293

リスクと危機の管理

レスポンシブル・ケア活動

GRI 403-4

指標と目標

中長期目標と2023年実績

花王は2030年にグローバルでトップレベルの安全確保と環境保全を満たす企業になるべく、日々のRC活動を推進しています。

この目標を達成するために、現在のRC活動のさらなるレベルアップ、及び活動範囲の拡大、マネジメントシステムの向上をめざしていきます。

そのため「花王グループRC目標」として2030年までの中長期目標を立て、この目標に対しバックカスティングする毎年の目標を設定し、日々の活動へ落とし込んでいます。

2023年実績

2023年は9月11日に「花王グループRC推進委員会」、12月22日に「日本RCミーティング」を開催しました。7月から8月にかけて「RC事務局監査」を日本及びグローバルの各会社、推進部門に対し実施しました。

またRC事務局監査の一環として、RC推進委員会事務局は毎年複数の推進部門の自己点検に立ち会い、規程等に基づきRC自己点検が適切に実施されているか確認しています。

2022年までは新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの監査や立ち合いがリモートとなっていました。2023年の監査や立ち合いは対面(リアル)や対

面とリモートを組み合わせたハイブリッドで実施しました。

しかし当初11月に予定していた集合での「グローバルRCミーティング」は、2022年同様資料やデータを共有するかたちでの情報共有となりました。

P288	コーポレート・ガバナンス
P305	RC事務局監査実施状況
P306	RC活動に関する教育

2023年実績に対する考察

環境では「エネルギー使用量」「温室効果ガス発生量」「直接埋立・単純焼却率」及び「水使用量」で目標を達成しました。またKirei Lifestyle Plan の中期目標に沿うかたちで設定した「購入電力中の再生エネルギー割合」「排水COD公開率」は目標を達成しましたが、「VOC 排出量公開率」は目標未達となりました。

安全では「休業災害度数率」「全災害度数率」「場内火災・爆発事故」で目標未達でしたが、「死亡・機能損失災害」「業務上疾病による休業」「物流漏えい事故」の項目がいずれも発生件数ゼロで目標を達成しました。

2024年も目標未達の項目などもありましたが、当初の目標値は変更せず、さらなる改善をめざしていきます。

主な取り組み

RC活動の標準化

花王グループRC推進委員会(9月)

2023年は、9月11日に「花王グループRC推進委員会」をハイブリッドで開催しました。事務局からは2023年のRC目標に対する花王グループ全体の上半期の実績やRC事務局監査結果、高圧ガス保安監査結果を報告しました。また、推進部門から各部門の推進活動状況が発表されました。最後に審議事項として、2024年の花王グループRC目標が承認されました。

グローバルRCミーティング(10月～11月)

当初11月6日・7日に各国RC担当者が参集し、「グローバルRCミーティング」を本社にて対面で開催する予定でしたが、前年に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響で中止し、代替として、各工場からの資料を共有するかたちでのRC活動の活性化とレベルアップを目的に各社のRC活動の状況確認、ベストプラクティスの共有を行いました。

日本RCミーティング(12月)

12月22日の「日本RCミーティング」はハイブリッドで実施し、各推進部門のRC推進委員が2023年の活動実績を報告すると共に、2024年の自部門の計画案を発表し、審議・承認されました。また事務局からは2023年の環境及び安全の実績報告を行いました。

レスポンスブル・ケア活動

GRI 403-2, 403-4

海外との情報交換会

新型コロナウイルス感染症の影響で海外各国 RC 担当者と直接意見交換などができない状況のため、2023 年4月～7月にかけてエリアごとにリモートで情報交換会を計13回開催しました。この情報交換会では事務局からは2022年のサマリーや活動トピック及び2023年の目標や活動内容、各国担当者からは2022年の活動状況やトピックなどを報告すると共に、RC全般の意見交換を行いました。

RC 事務局監査実施状況

2023年は7月から8月にかけて、日本の8推進部門、海外は安全と環境面の影響度を配慮して工場を持つグループ会社20社※1に対して、チェックシートを用いて RC 事務局監査を実施しました。2021年にチェックシートを、ISO14001及びISO45001の要求事項、ICCA(国際化学工業協会協議会)のセルフアセスメントツール

の項目を反映したものに一部変更すると共に、RC 活動のパフォーマンスについても併せて評価する内容に改善しました。

日本については、各推進部門と対面(リアル)で、法的要求事項・基準等の遵守状況、計画の進捗状況や数値目標の達成状況などを確認しました。海外については、同じチェックシートを用いた書類監査を実施しました。今回の監査では2022年の監査時の指摘事項についてはすべて対応済みであることも併せて確認しました。

2023年のRC 事務局監査の結果については、全体としては2022年とほぼ同じスコアとなりました。また継続観察が必要な項目としてマネジメントシステム、労働安全に関する指摘が多く見られたため、さらなるレベルアップを依頼しました(下表参照)。

※1 上海花王、花王(合肥)、花王(上海)化工、花王葫芦島鑄造材料、花王(台湾)、花王(ベトナム)、ピリピナス花王、花王インダストリアル(タイランド)、ファティケミカル(マレーシア)、花王(インドネシア)、花王インドネシア化学、花王USA、花王スペシャルティーズアメリカズ、キミ花王、花王マニファクチュアリングジャーマニー、ドイツ花王化学、モルトンブラウン、花王コーポレーション(スペイン)、花王チミグラフ、花王コリンズ

RC事務局監査実績(2023年度)

	SCM 部門	研究開発部門	事業部門	コーポレート部門	日本グループ会社※2	海外グループ会社※3
評価回答数	246	211	282	510	744	6,537
評価平均点【5点満点】※4	4.25(4.21)	4.75(4.53)	4.84(4.83)	4.33(4.52)	4.40(4.49)	4.51(4.54)
継続観察が必要な項目	2(1)	0(0)	0(0)	4(5)	5(6)	—

※2 日本グループ会社

花王プロフェッショナル・サービス(株)、花王グループカスタマーマーケティング(株)、花王ロジスティクス(株)

※3 海外グループ会社

20社(アジア11、欧米9)

※4 ()内は2022年の結果

国際マネジメントシステム認証状況

花王は、RC マネジメントシステムを全拠点を対象に導入しています。環境の国際規格であるISO14001、労働安全衛生の規格であるISO45001の認証や各国の認証も受けています。

環境に関する認証取得状況(ISO14001等)

外部認証を受けている工場の割合はISO 認証機関で95%、政府などその他の認証機関で4.5%となっています(総生産量重量基準)。

活動の標準化・高度化をめざし、個別工場で取得していた認証の統合を実施し、日本とアジアの15サイトで完了しています。今後、統合する工場を増やすなど、認証取得拠点の拡大を実施していきます。

労働安全衛生に関する認証取得状況(ISO45001等)

労働安全衛生のマネジメント規格は、労働管理の強化が必要な海外の工場で優先的に取得を推進しており、外部認証を受けている工場の割合は62%です(総生産量重量基準)。

活動の標準化・高度化をめざし、個別工場で取得していた認証の統合を日本とアジアの11サイトで完了しています。今後、統合する工場を増やすなど認証取得拠点の拡大を実施していきます。

レスポンシブル・ケア活動

GRI 403-5

品質に関する認証取得状況(ISO9001等)

外部認証を受けている工場の割合は99%です(総生産量重量基準)。今後、認証取得工場を拡大していきます。

外部認証取得一覧



ISO等認証取得一覧

<https://www.kao.com/jp/sustainability/pdf/environment-activity-data/certification/>

RC活動に関する教育

RC推進委員会事務局や各推進部門のRC担当者は、社員や協力会社の社員を対象に、環境や労働安全衛生、保安防災などのRC活動に関する教育を定期的に行っています。2023年も在宅勤務などでも気軽に学習できるように、ネット学習(eラーニング)を積極的に活用し教育を実施しました。

2023年にRC推進委員会事務局が社員を対象に実施したRC教育は12回、のべ600人余りが参加しました。

今後も積極的にeラーニングなどを活用しRCに関する教育を実施していきます。

レスポンシブル・ケア活動 関連データ リンク集

レスポンシブル・ケア活動の体制、主な活動内容、2023年の実績は、以下も併せてご覧ください。

労働安全衛生

P246 社員の健康増進と安全

保安防災

P369 保安防災

化学品・製品安全



化学物質をより安全に使用するための取り組み
<https://www.kao.com/jp/innovation/safety-quality/saicm/>

環境・安全の基本理念と基本方針
<https://www.kao.com/jp/sustainability/klp/policy/environment-safety-policy/>

品質保証
<https://www.kao.com/jp/innovation/safety-quality/>

P275 責任ある化学物質管理

環境保全



基本方針
<https://www.kao.com/jp/sustainability/klp/policy/environment-safety-policy/>

花王 環境宣言
<https://www.kao.com/jp/sustainability/klp/policy/environmental-statement/>

環境活動データ集
<https://www.kao.com/jp/sustainability/pdf/environment-activity-data/>

責任ある原材料調達
<https://www.kao.com/jp/sustainability/we/procurement/>

よりすくやかな地球のために
<https://www.kao.com/jp/sustainability/planet/>

P343 生物多様性

法規制・自主基準の遵守

P168 実効性のあるコーポレート・ガバナンス

社会とのコミュニケーション



社会貢献活動
<https://www.kao.com/jp/sustainability/society/>

コーポレート・ガバナンス	リスクと危機の管理	レスポンシブル・ケア活動	品質保証	情報セキュリティ	デジタル・トランスフォーメーション
知的財産	租税戦略	生物多様性	生活者とのコミュニケーション	保安防災	社会貢献活動

レスポンシブル・ケア活動

TOPIC 外部からの評価

SCM部門が「レスポンシブル・ケア(RC)」の審査員特別賞を受賞

花王SCM部門が「花王の生産部門を支えるリーダー育成(花王テクノスクール)」において、一般社団法人日本化学工業協会「第17回 RC 賞」で「RC 審査員特別賞」を受賞しました。

テクノスクールが長きに渡り継続して行っている資質素養学やゼミナール活動などのユニークなカリキュラム、キャリアプランに基づいた人財育成とその課題への対応、そして国内・海外合わせて1,000名を超える修了生がグローバルに活躍している人財育成の成果などが高く評価されました。

